



E コマンド

ここでは、[e] から始まる Cisco NX-OS ユニキャスト ルーティング コマンドについて説明します。

eigrp graceful-restart

Enhanced IGRP (EIGRP) のグレースフル リスタートをイネーブルにするには、**eigrp graceful-restart** コマンドを使用します。デフォルトの設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eigrp graceful-restart

no eigrp graceful restart

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト イネーブル

コマンド モード アドレス ファミリ コンフィギュレーション
ルータ コンフィギュレーション
ルータ VRF コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。
4.0(3)	graceful-restart コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン **eigrp graceful-restart** コマンドを使用し、EIGRP がプロセス再起動によりデータ フォワーディングパスに留まるようにします。このコマンドは **nsf** コマンドと同じです。

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

■ eigrp graceful-restart

例

次の例では、グレースフル リスタートをイネーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# router eigrp 1
switch(config-router)# eigrp graceful-restart
```

関連コマンド

コマンド	説明
graceful-restart	グレースフル リスタートをイネーブルにします。
timers nsf	ノンストップ フォワーディングとグレースフル リスタートのタイマーを設定します。

eigrp log-neighbor-changes

Enhanced IGRP (EIGRP) ネイバルルータとの隣接関係での変更のロギングをイネーブルにするには、**eigrp log-neighbor-changes** コマンドを使用します。EIGRP ネイバルルータとの隣接関係での変更のロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eigrp log-neighbor-changes

no eigrp log-neighbor-changes

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 隣接関係の変更がロギングされます。

コマンドモード アドレスファミリー コンフィギュレーション
ルータ コンフィギュレーション
ルータ VRF コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
	4.0(3)	log-neighbor-changes コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン **eigrp log-neighbor-changes** コマンドを使用してネイバルルータとの隣接関係の変更をロギングし、ルーティングシステムの安定性を監視し、問題を検出します。デフォルトでは、ロギングはイネーブルです。ネイバルルータとの隣接関係での変更のロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、EIGRP プロセス 209 のネイバー変更のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp log-neighbor-changes
```

関連コマンド	コマンド	説明
	log-neighbor-changes	EIGRP ネイバーの変更のロギングをイネーブルにします。
	log-neighbor-warnings	EIGRP ネイバーの警告のロギングをイネーブルにします。
	log-adjacency-changes	EIGRP 隣接状態の変更のロギングをイネーブルにします。

eigrp log-neighbor-warnings

Enhanced IGRP (EIGRP) ネイバーの警告メッセージのロギングをイネーブルにするには、**eigrp log-neighbor-warnings** コマンドを使用します。EIGRP ネイバーの警告メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
eigrp log-neighbor-warnings [seconds]
```

```
no eigrp log-neighbor-warnings
```

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	(任意)繰り返されるネイバー警告メッセージ間の時間間隔(秒)。範囲は 1 ~ 65535 秒です。
------------------	----------------	---

コマンドのデフォルト設定 ネイバーの警告メッセージがロギングされます。

コマンドモード アドレスファミリ コンフィギュレーション
ルータ コンフィギュレーション
ルータ VRF コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
	4.0(3)	log-neighbor-warnings コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン **eigrp log-neighbor-warnings** コマンドを使用してネイバーの警告メッセージをイネーブルにし、繰り返されるネイバー警告メッセージ間の間隔を設定します。

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例 次に、EIGRP プロセス 209 のネイバー警告メッセージをロギングし、5 分 (300 秒) 間隔で警告メッセージを繰り返す例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp log-neighbor-warnings 30
```

関連コマンド	コマンド	説明
	log-neighbor-changes	EIGRP ネイバーの変更のロギングをイネーブルにします。
	log-neighbor-warnings	EIGRP ネイバーの警告のロギングをイネーブルにします。
	log-adjacency-changes	EIGRP 隣接状態の変更のロギングをイネーブルにします。

eigrp router-id

Enhanced IGRP (EIGRP) がネイバーと通信する際に使用するルータ ID を設定するには、**eigrp router-id** コマンドを使用します。設定されたルータ ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
eigrp router-id ip-address
```

```
no eigrp router-id ip-address
```

シンタックスの説明

ip-address ルータ ID (ドット付き 10 進表記)

コマンドのデフォルト設定

EIGRP は、EIGRP プロセスが開始されたときにルータ ID として使用する IP アドレスを自動的に選択します。最も高いローカル IP アドレスが選択され、ループバック インターフェイスが優先されます。EIGRP プロセスが **no router eigrp** コマンドによって削除されないかぎり、またはルータ ID が **eigrp router-id** コマンドによって手動で設定された場合、ルータ ID は変更されません。

コマンド モード

アドレス ファミリ コンフィギュレーション
ルータ コンフィギュレーション
ルータ VRF コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。
4.0(3)	router-id コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン

eigrp router-id コマンドを使用し、EIGRP にルータ ID を手動で設定します。ルータ ID は、外部ルートの発信元ルータを識別するために使用されます。外部ルートがローカル ルータ ID によって受信された場合、そのルートは破棄されます。ルータ ID は、2 つの例外を除く任意の IP アドレスによって設定できます。0.0.0.0 と 255,255,255,255 は有効な値ではなく、入力できません。各ルータに一意の値を設定する必要があります。

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

例

次に、固定されたルータ ID として 172.16.1.3 を設定する例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp router-id 172.16.1.3
```

eigrp stub

ルータを Enhanced IGRP (EIGRP) を使用するスタブとして設定するには、**eigrp stub** コマンドを使用します。EIGRP スタブ ルーティング機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

eigrp stub [**direct** | **leak-map** *map-name*] **receive-only** | **redistributed**]

no eigrp stub [**direct** | **leak-map** *map-name*] **receive-only** | **redistributed**]

シンタックスの説明

direct	(任意) 直接接続されたルートをアドバタイズします。
leak-map <i>map-name</i>	(任意) リーク マップに基づいて、ダイナミック プレフィックスを許可します。
receive-only	(任意) ルータを受信専用ネイバーとして設定します。
redistributed	(任意) ほかのプロトコルおよび Autonomous System (AS; 自律システム) から再配布されたルートをアドバタイズします。

コマンドのデフォルト設定

ディセーブル

コマンドモード

アドレス ファミリ コンフィギュレーション
ルータ コンフィギュレーション
ルータ VRF コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。
4.0(3)	stub コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン

eigrp stub コマンドを使用し、ルータをルータがすべての IP トラフィックを配信ルータに導くスタブとして設定します。

direct キーワードを使用すると、EIGRP スタブ ルーティングは接続されたルートをアドバタイズできます。デフォルトでは、このオプションはディセーブルです。

receive-only キーワードを使用すると、ルータがその EIGRP AS 内のほかのルータとルートを共有するのを制限します。また、**receive-only** キーワードは、あらゆるタイプのルートの送信を阻止するため、ほかのオプションが指定されるのを許可しません。

redistributed キーワードを使用すると、EIGRP スタブ ルーティング機能によって、ほかのルーティング プロトコルおよび AS を送信できます。このオプションが設定されていない場合、EIGRP は再配布されたルートをアドバタイズしません。

これらの4つのキーワード (**direct**、**leak-map**、**receive-only**、**redistributed**) のいずれかを **eigrp stub** コマンドと同時に使用すると、特定のキーワードによって指定されたルート タイプのみがアドバタイズされます

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

使用上のガイドライン

次に、ルータを受信専用ネイバーとして設定する例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 1
switch(config-router)# eigrp stub receive-only
```